

熊本大学 脳神経内科

キャリア形成・専門医養成 特別プログラム

2024



芦北 うたせ舟

ご挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科
教授 植田 光晴



熊本大学 脳神経内科 キャリア形成・専門医養成特別プログラムをご覧いただき心よりお礼申し上げます。

本格的な高齢化社会となり、脳神経内科に期待される役割は極めて大きくなっていますが、幸いにも熊本大学 脳神経内科は、長い歴史と実績を基盤として、高い専門性と幅広い診療を実践するメンバーが揃っています。また非常に充実した教育病院群を持つことは、我々が教育面で提供できる最も大きな財産です。急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、温かな先生方の下で安心して研鑽を積むことが出来ます。

脳神経内科の最も誇れるものは、知識と技術に基づいた正確な診断スキルです。脳神経内科医としてスペシャリストを目指す先生方に加えて、将来的に総合診療やプライマリケアを高いレベルで目指すジェネラリストの先生方も神経診察の習得は必須と考えます。当教室では、多様な研修が可能なプログラムを準備しています。これまで脳神経内科領域の診療は、わからないことが多く、治療法も限られていました。しかし、医学の進歩と共に脳神経内科領域の診療は大きく変わろうとしています。将来的に神経疾患に対する治療選択は増えてきます。先進的な核酸医薬や、バイオ分子標的薬など、すでに多く実用化されています。脳血管障害に対する血管内治療の実践に伴い、脳卒中診療の常識は変わりました。これから、認知症に対する新規治療法が臨床応用され、神経難病に対する治療薬も開発されると思います。頭痛やてんかん診療も新しい治療薬の登場と共に大きく発展すると期待できます。

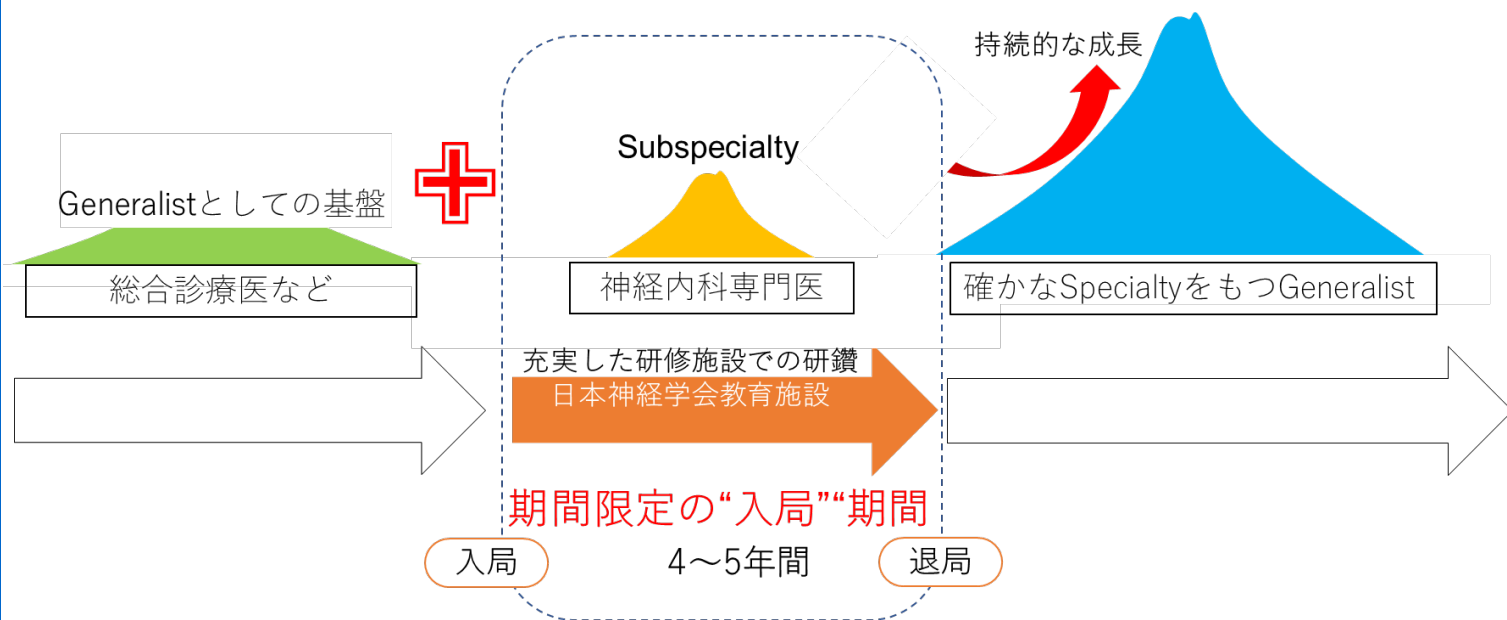
熊本大学 脳神経内科は、共に活動してくれる先生方が安心して研鑽を積み、充実した医師人生を過ごす一助となることを願っています。是非、仲間に加わって頂けることを心より願っております。



「神経内科専門医」養成 特別プログラムのご案内

-期間限定の研鑽で Subspecialty をプラスする選択-

総合診療医，救急医，一般内科・外科医など Generalist として既に研鑽を積まれてきた先生方を対象に，Subspecialty として脳神経内科の知識，技術を身に付け，「神経内科専門医」を効率的に取得いただく斬新なプログラムを開発いたしました。



日常診療でしばしば遭遇する神経系の Common disease に適切に対処でき，多彩な神経・筋疾患に対する専門性を持つこと，“神経内科専門医”を取得することは，大きな Upskilling，持続的な成長につながります．このような「Specialty を持った Generalist」のニーズは非常に高く，治療・研究の進歩が目覚ましい神経領域を専門とすることは，将来性を高める選択です．

Win-Win

<参加する先生のメリット>
総合診療医として確かなsubspecialtyを得られる

<医局のメリット>
より大きな診療ネットワークを維持できる

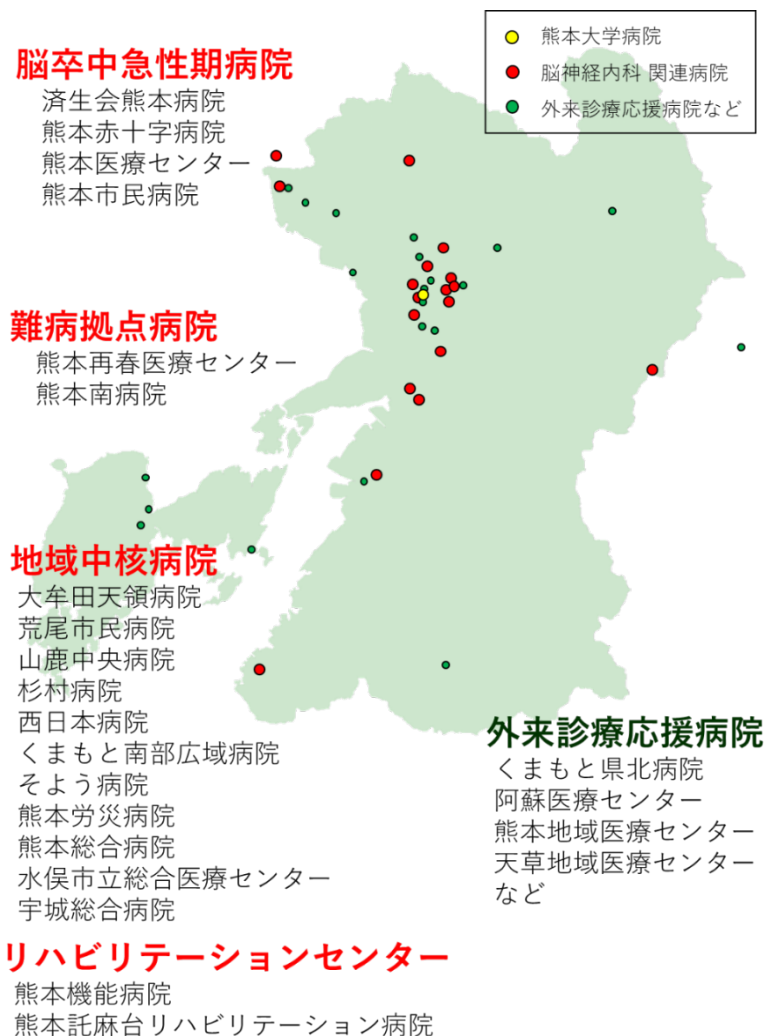
専門医の取得には一定の期間，神経学会指定の施設での研修が必要であるため，従来，卒後に脳神経内科に“入局”して研鑽を積むコースが一般的でした．熊本大学脳神経内科と熊本県全域の充実した教育病院群のネットワークを活用することにより，皆様のこれまでのキャリアを生かし，安定して勤務しながら短期間（4～5年程度）で効率的に専門医取得が可能です．従来の“入局”とは異なり，専門医取得後は“医局人事”に縛られることなく皆様が描かれる自由な将来設計を応援いたします．

熊本大学脳神経内科だからできること

◆ 熊本県全域の魅力的な教育病院群

熊本大学脳神経内科と関連病院では、急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、非常にバランス良く脳神経内科疾患の診療を学ぶことができます。充実した脳卒中急性期病院、神経難病拠点病院、リハビリテーション専門施設、地域拠点病院など、国内でも有数の教育病院群で脳神経内科専門医取得をサポートします。幅広い脳神経内科診療を高いレベルで実践することが出来る真の実力を得られると確信します。

<熊本大学脳神経内科の関連病院>



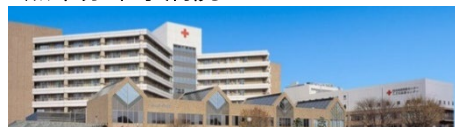
熊本大学病院



熊本医療センター



熊本赤十字病院



済生会熊本病院



熊本市市民病院



熊本再春医療センター



熊本機能病院



◆ 安定した勤務環境、恵まれた生活環境

常勤スタッフとしての安定した勤務環境が保証されます。休日は、森と水の都熊本、阿蘇、天草など恵まれた環境でリフレッシュできます。

◆ 将来性、専門医取得後の進路の自由度の高さ

脳神経疾患の診療は将来的にますます重要になります。専門医取得後は、医局に縛られることなく各人の進路を応援いたします。志向する専門性の研鑽、留学、開業などサポートします。

熊本で活躍する脳神経内科医のご紹介

藤本 彰子（平成 19 年福岡大卒， 熊本再春医療センター）

これまでの経歴

平成 19 年度卒業，平成 21 年入局．熊本大学病院，熊本再春医療センター，天草中央総合病院へ勤務後，夫の国内留学に伴い，平成 29 年 10 月～令和 2 年 8 月迄，国立精神・神経医療研究センター病院，脳神経内科および身体リハビリテーション科に勤務．令和 3 年 5 月～令和 5 年 3 月まで，夫の海外留学のためフランス(パリ)に滞在．11 歳，7 歳の二児の母．

脳神経内科を志望して思うこと

神経難病の診療に携わるうちに，内科的治療にリハビリテーション医療を組み合わせることで，疾患の進行抑制できるのではないかと考えリハビリテーション医療に興味を持ちました．国立精神・神経医療研究センター病院で行った研究として，「デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する長下肢装具立位訓練の側弯予防効果の検討」を行い，早期からリハビリテーション医療を開始することで側弯のみならず呼吸機能低下の進行予防し，歩行可能期を延長できる可能性を示しました．この研究は第 3 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会で YIA (Young Investigator Award) 最優秀賞を受賞しました．神経難病リハビリテーションは今後も発展が注目される分野と言えます．

将来の目標

神経難病の患者さんへ早期からリハビリテーション医療を開始し，疾患の進行抑制を図ることです．

最近では，神経難病に対する再生医療にリハビリテーション医療を併用させることが治療効果の最大化に重要である可能性を示唆する知見も出てきており，今後，臨床応用が可能となった時にそれを証明していくことも重要だと考えています．

プログラムを検討中の先生へ一言

私はこれまで夫の転勤のため，東京やフランスなど様々な場所で過ごしてきました．知り合いもおらず，幼い子供もいたのですが，それをチャンスにそこでしか学べない事を探してチャレンジしてきました．頑張れた背景には，「うまく行かなかったら熊本へ帰ろう」，医局というホームがあったからです．また，知らない教育病院での熊本大学病院という後ろ盾は，少なからず私を守ってくれました．私が熊本から離れる際に相談に応じ，応援して下さいた上司の先生方にはとても感謝しています．女性医師の中には，結婚，出産，育児という岐路で自分のキャリアプランを考え直す機会がある事もあると思います．私も含め，相談に乗ってくれる医局ですので是非ご検討下さい．



松原 崇一郎（平成 21 年大分大卒， 熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

平成 21 年度卒業，福岡徳洲会病院の初期研修医～総合内科を経て，平成 25 年入局．熊本大学病院，熊本赤十字病院での脳神経内科研修後，平成 27 年から 2 年間大阪の国立循環器病研究センターで脳卒中診療や研究の修練を行いました．特に脳卒中後てんかん研究班に参加し，てんかん診療・急性期脳波研修のため，埼玉の TMG あさか医療センターでも勤務しました．平成 29 年帰熊後は済生会熊本病院で脳卒中・てんかん含む急性期診療に従事，平成 31 年より現在の熊本大学病院 脳神経内科に所属し，てんかん専門医として難治性てんかんの診療や，長時間ビデオ脳波モニタリングの実施，研究を行なっております．

脳神経内科を志望して思うこと

大学に戻ってきて，改めて幅広く疾患を取り扱ってみると，神経という領域の広さ，深さを感じます．それぞれの領域を，掘り下げて診療・研究を行うことができ，強くやりがいを感じることができる診療科だと思います．以前は「分からない，治らない，でも諦めない」と揶揄もありましたが，最近だと，分かること，治ることが増えており，その点でも以前より参画しやすい領域だと思います．

将来の目標

100 人に 1 人のてんかんは有病率があり，薬剤治療を行なったうち 2-3 割は難治性に経過すると言われております．難治性てんかんに対して外科治療の適応が検討されますが，実際に手術を受けられる方はまだまだ全国的にも少ない状況です．適切な外科治療の適応決定も含めて，県下のてんかん患者がさらに良い診療を提供できる体制づくりに貢献したいです．

プログラムを検討中の先生へ一言

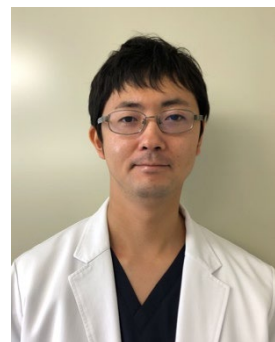
神経領域はさらなる進化が見込まれる成長株であり，Blue ocean だと思います．熊本から情報発信していけるよう，盛り上げていきたいものです．是非一緒に．



波止 聡司（平成 25 年熊本大卒， 熊本赤十字病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

学生時代に t-PA 静注療法が著効した症例を目の当たりにして脳卒中に興味を持ちました。神経疾患は難しくとても苦手でしたが、当時まだ少なかった脳神経内科医で脳血管内治療専門医でもあったカリスマ先生から誘っていただき、脳神経内科に入局しました。その後、2020 年 4 月より脳血管内治療の勉強のため、兵庫医科大学病院脳神経外科に 1 年半の国内留学をさせていただき、脳血管内治療専門医を取得しました。現在は熊本赤十字病院に勤務し、再開通療法を含めた多くの急性期治療に従事しております。



脳神経内科を志望して思うこと

入局当時から虚血性脳卒中に対する診断・治療には興味がありましたが、いわゆる神経難病は難しく苦手でした。医師として 10 年、入局して 7 年が経ち、神経内科専門医となった今でも残念ながら得意ではありませんが、神経内科疾患に苦手意識を持つ医師は多く、敬遠されがちな領域であるため、患者さんの役に立てることは多く、やりがいを感じます。脳血管内治療に関しては、熊本は脳血管内治療専門医が少なく、興味がある人にとっては、数多くの症例を経験して技術を身につけることができる絶好の場だと思います。

将来の目標

後輩達を育てて脳血管内治療専門医を増やすことで、熊本県全体で急性再開通療法ができる施設を増やすことが目標です。あとは 3 人の子供を育てながら、今年の誕生日に 35 年で組んだ家のローンを 65 歳までに何とか完済したいです。

プログラムを検討中の先生へ一言

急性期～慢性期疾患、リハビリテーションまで脳神経内科の領域は幅広く、自分の興味とライフバランスを考えてキャリアパスを描くことができる科です。生き急ぎたい人も、生き急ぎたくない人も、自分に向いている働き方をフレキシブルに選択できる科だと思いますので、まずはお近くの脳神経内科医に色々聞いてみて下さい。

今村 美智恵（平成 25 年長崎大卒， 熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

長崎大学を卒業後、長野県の諏訪中央病院で初期研修と一年間内科後期研修医として勤務しました。学生時代から脳神経内科に進むことは決めていましたが、一般内科医としての基礎を身に付けたいと考え、急性期から終末期、外来や往診と幅広く経験を積める病院で研修しました。4 年目から当科へ入局し、大学病院や、難病拠点病院をローテートさせていただきました。現在は 2 回目の育休から復帰し大学病院で勤務しています。



脳神経内科を志望して思うこと

疾患が幅広く、まだ同じ疾患であっても患者さんによって経過や症候が様々であり、興味が尽きない科だと感じています。診断にたどり着くまでに難しさもありますが、その分やりがいと充実度を感じます。また、日々新しい検査や治療法も見つかっており、発展目覚ましい分野です。

将来の目標

特に神経免疫に興味があり、現在分子標的薬などの導入で治療選択肢が広がってきている分野です。日々の診療はもちろんのこと、研究も含めて深めていけたらと考えています。

プログラムを検討中の先生へ一言

「難しい」と敬遠されがちな科かと思いますが、少しずつ経験を積む中で確実に自分の技術として成長を実感できる科です。現在私は育児があるため、時短で勤務していますが、その中でも専門医取得や病棟業務などキャリア形成できるように、対応いただいています。特に女性医師の場合家庭との両立に悩まれる方も多いと思いますが、色々な勤務形態での相談も可能です。ぜひ一緒に働きましょう。

田口 智朗（平成 26 年熊本大卒， 熊本大学大学院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

大学卒業後， 医師としての修練を奈良でさせていただきました． 海外での神経科研修に憧れ， 総合内科に所属しながら脳神経内科， 脳神経外科， 検査科などでの研修をさせていただきました． 8 年の修練を積み， 令和 4 年度から熊本大学脳神経内科へ入局させていただきました． 現在は大学院生として研究に従事させていただいております．

脳神経内科を志望して思うこと

選考当初は内科研修で学んだ知識がほとんど役に立たず， 神経科領域の独自性と難解さにただただ圧倒されておりました． 診察一つをとっても， 諸先輩方の診察をときに観察して， ときに指導を受け学ばせていただきました． その様は外科同様， 徒弟制度といっても過言ではないとさえ思われました． しかしながら， そういった技術や知識が増えるとともに， 不十分ながらも患者の問題点を抽出することができるようになり， 病態を解釈し， 治療に結びつけることができるようになってきているのではないかと思います． そのように成長プロセスを実感できるという意味で充実した日々を送ることができています．

将来の目標

General Neurologist を信条に， 世の中に貢献ができるような仕事をできたらと思っています．

プログラムを検討中の先生へ一言

病院にもよりますが， 二次救急までで言えば神経科領域の愁訴を呈する患者は非常に多くの割合を占めます． 特に高齢化社会の煽りを受け患者数が増加している脳梗塞では， 主幹動脈閉塞に対する IVR 治療が可能となり， 患者予後が著しく改善しました． また， 慢性疾患に関しても， 近年では分子標的薬による免疫治療や核酸医薬による遺伝子治療も可能になってきており， 治療可能な疾患が日々増えてきています． しかしながらまだまだ治療ができない疾患が多いことも事実であり， 日々世界の研究者がその治療開発に心血を注いでいます． そのような昨今の実情を踏まえすと， 的確で迅速な診断と治療， さらに研究領域における我々神経科医の重要性はさらに高まっていると思います． 日常診療でも， 研究領域でも大きな役割を担うことができる脳神経内科と一緒に頑張っていきましょう．



宮野 遼太郎（平成 31 年自治医大卒， 熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

自治医科大学を卒業後， 熊本大学病院， 熊本赤十字病院で初期研修を終え， その後は天草市立河浦病院で内科医として勤務しています． 地域医療に従事しながら， 週 1 回は熊本大学病院に非常勤医師として勤務し， 昨年度は外来診療や脳波検査， 今年度は神経生理検査の勉強をさせて頂きました．

脳神経内科を志望して思うこと

私は大学時代にてんかんの疑いと診断され， 2 年間抗てんかん薬を内服した経験から， てんかんに興味を持つようになりました． およそ 100 人に 1 人と比較的メジャーな疾患でありながら， てんかんを専門とする脳神経内科の先生は県内でも少なく， 自分がてんかんで困っている方々の診断や治療に少しでもお役に立てたらと思い脳神経内科を志望しました．

入局後は地域医療に従事しながら， 週 1 回の研修で脳神経内科を学んでいます． 医局の先生方は臨床・研究に大変熱心でありながら， アットホームな雰囲気なので， 分からないことも丁寧に教えて頂けます． また， 大学の特性上， 僻地勤務の義務年限もありますが， 医局の理解もあり地域医療に従事しながらも， 専門医をとれるよう色々のご配慮頂いており， とても恵まれた環境だと感じます．

将来の目標

一般的な脳神経内科の診療ができるようになった上で， 将来的にはてんかんの勉強を深めていきたいです． 熊本県内のてんかんで困っている方へ， 正しい診断と治療を通し， 社会復帰へのサポートに尽力したいです．

プログラムを検討中の先生へ一言

脳神経内科は， あたたかい雰囲気があり， 指導体制が充実しているため地域にいながらも勉強できる環境があります． 皆さんと一緒に脳神経内科医として働ける日を楽しみにしています．



井上 泰輝 (平成 16 年熊本大卒, 米国メイヨークリニック脳神経科学部門 Research associate)

「ここが私のアナザースカイ. Jacksonville, Florida」

メイヨークリニック脳神経科学部門から井上 泰輝です。私が居住するジャクソンビルは、合衆国の南東部フロリダ州にあり、年間を通じ穏やかな気候に恵まれた街です。とはいえ、氷点下の日も年間に 4-5 日ほどはあります。昨年秋には超大型ハリケーン・イアンが襲来し、スーパーでも飲料水が品薄になりました。台風でいう暴風域が丸一日続くような規模の大きさで、居住区での被害は少なかったのですが、南部を中心に甚大な被害となりました。フロリダといえば、世界最大のディズニーリゾートやケネディ宇宙センター、マイアミビーチが思い浮かびますが、遠出をする機会がなく、本紙面でレジャーのお話ができないのが残念なところ。さて、肝心の私が行っている研究についてお話をしましょう。研究室のメインテーマである「ApoE」という分子が脳血管障害や血管老化に与える影響について iPS 細胞や動物モデル等を用いて 5 つほどのテーマで研究を行っています。iPS 細胞では、それを様々な脳血管細胞へと分化誘導させるのですが、定期的にレクチャーや共同研究の依頼を頂き、米国での関心の高さを感じます。会議も徐々に ZOOM から in person へ移行し、他の研究機関との打ち合わせで、州を超えた移動も増えました。最近では米国のグラントも獲得し、一方でベンチャーの取り組みも始めています。常に大小の困難、苦勞を抱えますが、新しい知見を得たときの喜びは格別で、それまでの苦勞や困難をすべて吹き飛ばしてくれます。志が高くハードワークを厭わない同世代の仲間と囲まれ（励ましに感謝）、家族の協力もあり（深く感謝）、順調に進めているものと思います。

プログラムを検討中の先生方へ

脳神経内科では「治る」病気がこの数年で飛躍的に増えました。これからもさらに増えてゆくことでしょう。しかし一方で、根治の難しい病気は依然としてあり、それを治療可能な病気に変えてゆくため臨床研究、そして基礎研究が存在します。研究の出発点は、目の前の患者さんの体の中で、なにが起きているのだらうと一生懸命に考えることから始まります。想像力を働かせ、こうすれば症状がよくなるのではないかと仮説を立て、研究を行い、少しずつ病気の本質に迫ってゆくのです。

翻訳家 戸田奈津子さんの言葉を拝借して皆さんにお贈りします。

「想像力があれば、どこへでも行ける」

皆さんの可能性は無限大です。脳神経内科で診療、研究をおこなって、大きな未来を創造して頂きたいと思います。



病院見学・お問合せ窓口

熊本大学 脳神経内科キャリア形成・専門医養成特別プログラムについてご興味のある方、ご質問、見学のご希望などお気軽にご連絡ください。

熊本大学 脳神経内科学講座 中原圭一（医局長）

Tel: 096-373-5893

E-mail: k1nakahara@kuh.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学大学院生命科学研究部
先端生命医療科学部門
脳・神経科学分野 脳神経内科学講座

〒860-8556

熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号

TEL 096-373-5893 (代表)

FAX 096-373-5895